



首都ルサカ市内

ルアノ地区の風景



# NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

## ORMZ ニュース第 30 号 (H26.7.12)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄

はじめに もう 7 月ですね、今年の半分が過ぎました。そんな時期に、猛烈な台風 8 号が沖縄から、九州、四国、紀伊半島、本州と日本を縦断して大雨を降らせ、各地で被害が出ています。被害にあわれた地域の方々には、心からお見舞い申し上げます。

### 会の経過報告

山元香代子先生がザンビアから日本に帰国されました。7, 8, 9 月は鹿児島県の病院で非常勤医師として働かれる予定です。この間も、現地ではスタッフが巡回活動を継続しています。

また、先にお知らせした研修を終えた「コミュニティヘルスワーカー」さんが、各地のヘルスポストで週 2, 3 日勤めてくれて、マラリアなどが疑われる方の検査と、陽性の場合の薬の配布（皆さんのご支援で準備したもの）をおこなってくれています。

今回は、山元香代子先生の大学の同級生のご息が医学生になり、6 月にムワンタヤでの巡回診療に同行された感想文を送ってこられましたので、同時に届いた三重大学及び藤田保健衛生大学医学生の感想文と併せて掲載します。

なお、すでにお知らせしましたが、8 月 3 日 午後 5 時から「NHKBS 地球アゴラ」で、山元先生が出演され、ザンビアでの活動についての報道がありますので是非ご覧ください。

### ムワンタヤでの巡回診療感想文 (滋賀大学医学部生 藤原 稔朗様)

電気も水道もない村落での出張診療。30 万キロも走ってきたランドクルーザーを労りながらの凸凹オフロードドライブ。次から次へと出てくるマラリア検査陽性の結果。5 時間半休みなしの診療を行なう山元先生の患者に向けるあたたかい眼差し。それらがムワンタヤへのモバイルクリニックに同行させていただいた 6 月 4 日に得た印象である。

この日は朝 6 時にルサカのオフィスを出発の予定だったが、待ち合わせの時刻を過ぎてもドライバーが現れないというアクシデントに見舞われ、急遽、先生とクリニックに必要な物品一式をのせたランドクルーザーを運転させていただくこととなった。かつて南ア



診療を待つ人々



リカの車社会で生活していたので、ザンビアでの運転に不安はなかったが、幹線道路以外の道路はお世辞にもコンディションが良いとは言えず、とりわけ日が落ちてからのオフロードではかなり神経をすり減らした。さて、ムワンタヤへ到着したのが午前10時半。我々の到着を、首を長くして待っていた住民のために、息つく間もなく必要な物品を車から下し、会場を設営して診療スタート。私もどこか人手が必要なところを手伝いたいと志願し、マラリア検査を担当することとなった。マラリアにたびたび感染している場合、マラリアに対してある程度自己免疫がついているためか、感染しても発熱など見られないことがあるらしく、倦怠感、頭痛があれば検査を受け、それで陽性の結果となる患者が後を絶たない。一緒に検査を担当したコミュニティヘルスワーカーの方と脇目もふらずに手を動かし続け、ようやく一息つけたころには午後3時を回っていた。ムワンタヤはルアノに比べてマラリアが少ないと聞いていたが、この日のマラリア検査陽性率は4割以上。小児や免疫力の落ちている患者では致命的である一方、薬で治せる疾患だけに診断が重要であり、モバイルクリニックがまさに多くの患者を救っていることを実感させられた。



診察風景

すべての診療が終わったのは午後4時ごろだったのだろうか。ムワンタヤの住民の方々が用意してくださった昼食をいただいた。その鶏肉の美味しいこと。夜明け前に朝食にとってからほとんど何も口にしていなかったもので、いくらでも胃袋に収まりそうな気がした。あとは撤収してルサカへの帰路につくのみ。そう思っていたら、村人の一人がどうしてもモバイルクリニックの会場まで来られないので、往診に行くと言う。村人の健康のためにはできる限りの手を尽くす先生の姿勢、そして、訪問先のお宅で診察を終えて、おどけた仕草で子どもを楽しませる先生の笑顔、最高に素敵だった。



用意された昼食



往診先での診察風景

末筆ながら、お忙しい中、今回の見学を受け入れてくださり、ありがとうございました。

将来、自分がどのような姿勢で医療に向き合うか考える上で、非常に貴重な材料を得ることができました。もう少し先生のお役に立てるようになって、またザンビアの先生のもとを訪ねたいと思います。厳しい環境ですが、くれぐれもお身体ご自愛ください。

### 巡回診療 感想文(三重大、藤田保健衛生大医学生より)

山元香代子先生、こんにちは。お久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか。

先日、4月23日にルアノ地区への Mobile Clinic に同行させて頂き、誠にありがとうございました。我々は全員無事に帰国し、あの時のかけがえのない経験を胸に、現在日本で臨床実習を行っております。遅くなり申し訳ありませんが、各々が感じたことを以下に述べさせていただきます。



マラリア検査の様子

7人を代表して、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。何卒お身体にお気を付けてお過ごし下さい。三重大学医学部6年 山本春香

●三重大学一安積佑樹

4月に山元先生の mobile clinic に同行させていただきました。電気も通っておらず、清潔な水も満足に手に入らない環境の中、汗だくになりながら患者さんの診察を行う先生の姿からは、揺るぎない信念を感じました。ただ漠然とボランティアで貧しい人たちを救いたいという気持ちだけではあきらめてしまいそうな苦労や困難を乗り越えて医療を提供していて、言葉にならない感銘を受けました。この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



●三重大学一乙部裕

お忙しい中モバイルクリニックに同行させていただきありがとうございました。先生の熱意から海外で活動する事の大変さを肌で感じ、現実にはたじろぎましたが、先生が仰った「海外で活動する上でまず必要なのは、医師としてある程度出来る自負」という言葉を今後の処世訓として頑張ろうと思います。先生もご無理なさらぬようご自愛ください。

●三重大学一牧田英恵

先日は、巡回診療に同行させていただきありがとうございました。今回、同行させていただいたルアノ地区までの道はほとんど整備されておらず、私が予想していたよりも大変厳しい道のりでした。ルアノでは、口コミでの情報により、すでにたくさんの人が診察してもらっているのを待っていました。それを見て、いかにルアノ住民が山元先生を頼りにしているかを知ることができました。

日本での医療現場には常に診察をする環境が整っておりますが、ここルアノでは机から椅子まで用意し、カルテを順番に並べるところから診療が始まります。私たちは受付の手伝い、妊婦健診の補助などをさせていただき、実際にモバイルクリニックの現状を身を持って感じました。発熱、下痢など、たくさんの患者さんがいらっしゃいましたが、中でも驚いたのは小児患者の多さです。診察をする部屋の前には、早く自分の子供をみてくれという母親達が列をなしており、その発熱している子供にマラリアの検査をしたところ、陽性率は約70%と驚く結果でした。このような環境の中、マラリアをはじめとする感染症を防ぐためには、蚊帳や感染に対する知識を広めていくことが重要であると感じました。そして、ルサカの医療環境を改善していくためには、医療だけではなく、教育・水・資源・インフラといった多方面にわたるアプローチが必要であるとも感じました。

山元先生は到着してから日暮れまで、ひっきりなしに訪れる患者さんを丁寧に診察されており、先生のその情熱には胸があつく思いました。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。この経験を活かし、全人的に患者さんを見ることが出来る医師になれるよう、精進してまいりたいと思います。

●三重大学一山本春香

当日は説明する時間がないだろうからということで、前日にご自宅兼事務所にて我々を招いて下さり、ご多忙にもかかわらず丁寧に説明して下さいました。事務所にはたくさんの薬や検査キットが積まれており、全て山元先生が自費や寄付金で購入されたとのことでした。

当日6:30にLusaka市内中心地の宿を出て、Luano





地区へ向かいました。途中で山元先生らチームと合流し、Health Center に寄りつつ、10:30 頃に Luano 地区に到着しました。日本では想像もつかないようなデコボコの道に約 2 時間揺られたため、我々は到着した時すでに疲れ切っておりました。しかし、山元先生は休憩することもなくすぐに長蛇の列の診療を開始されました。

診療・薬の処方・マラリア検査、妊婦健診(鉄剤・葉酸・抗マラリア薬も提供)、ワクチン、身体測定、体温測定などのブースに分かれて、山元先生や Health Worker さんや助産師さんや現地のスタッフの方々が対応していらっしゃいました。我々もそれらを手伝いながら、見学させて頂きました。とても暑い中 16:30 まで休憩もせず、山元先生は大勢の母親と子供の診察を続けられました。先生の体力と揺るぎない信念に大変驚きました。

一番印象的だったのは「医療は教育にかなわない」という山元先生のお言葉です。この言葉の意味をすぐには理解できませんでしたが、実際に現状を見て分かったような気がしました。いくら物資や資金を補充しても、正しく教育を受けていない人達の前では余りにも無力です。世界にはどうにもならない根本的な問題が山積みであると痛感致しました。それでも、水も電気も医療もない人々に無料で医療を届けるために、毎週デコボコの道を往復する山元先生のエネルギーは、本当に素晴らしいものです。この深い尊敬の念は何と表現したら良いのか分かりませんが、どうかお身体を崩されることなく、この素晴らしい活動が継続され、ザンビアが発展の途をたどるよう、心よりお祈り申し上げます。私も山元先生を見習って精一杯精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。



集合写真

#### ●藤田保健衛生大学—鈴木大次郎・根木見聡・日比絵里菜

先日 Mobile Clinic 巡回診療に同行させていただきました。想像以上の悪路に驚くとともに、ここで診療を続ける山元先生のご尽力に深く感銘を受けました。私たちは英語が得意というわけではないため、今回 6 週間という短い間ですが、ルサカの中核病院で実習を行い、海外で医療を行うには言葉の壁という大きな障壁があるということを目の当たりにしました。もちろん先生は語学も堪能でいらっしゃいますが、先生のご活躍を拝見させていただき、十分な医療知識を持ち、医師として自信を持つことでその壁は幾分か壊れるのではないかと感じました。今回の経験を生かし、良き医療者となるため今後は更に医療も英語も勉強したいと思います。見学を快く受け入れていただいた山元先生、関係者各位の方々にご場を借りましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

**賛助会費の納入について** 26 事業年度 (26 年 1 月から 12 月です) の賛助会費をまだ納入されていない方は、どうぞ賛助会費(一口 5000 円、一口以上) の送金と連絡をお願いします。納入したかどうかわからない際は、法人代表 [info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp) または日高 ([hidaka1956@gmail.com](mailto:hidaka1956@gmail.com)) へ連絡してください。折り返しお返事をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ (注: ヲ→オ)

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします